

## 富 賀 寺

富賀寺は、高野山真言宗に属する密教寺院で、寺伝によれば飛鳥時代の大宝元年（701年）に行基が十一面観音像を彫り、小堂を建てたことに始まります。10世紀には藤原忠平が訪れ、本尊十一面観音を参拝したところ、たびたび夢に現れ、ますます深く信仰されたそうです。そのおかげで関白太政大臣まで昇進することができたので、そのお礼に本堂や中堂、護摩堂、三重塔、大門、十二坊舎などを寄進し、943年に落慶法要をしたと記されています。

13世紀に足利氏が三河国の守護に任ぜられてから、足利氏の勢力がこの地方に定着しました。寺伝によれば、尊氏の従弟である真応上人が富賀寺の住職になっており、彼の熱心な祈祷のおかげで尊氏は室町将軍として天下を統一することができたとあります。それ以後、富賀寺を祈願寺として延元年間（1336～1339）に本堂・中堂・阿弥陀堂等九ヶ所をはじめ18の坊舎を造営、180町の寺領を寄進、さらに「三千仏名宝塔図」も寄贈したと記されています。

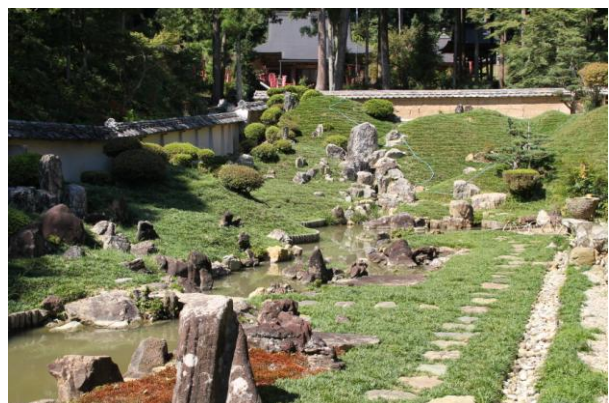
16世紀になって、今川氏の進出を迎え、今川義元による尊氏以来の寺領を保証する安堵状が富賀寺に残っています。

宇利の戦いの際には、富賀寺の裏山が清康の本陣となりました。その縁で、富賀寺は徳川氏の保護下に入ったということで、家康はじめ各将軍からの朱印状が残っています。

また、1573年(天正元年)、三方ヶ原の戦いで徳川家康を破った武田信玄が宇利峠を越えて野田城を取り囲んだときには、富賀寺の一部が焼き払われたこともありました。



富賀寺の本堂



市指定文化財の池泉式庭園

このように、富賀寺は歴史上の人物との関わりがあった寺なのです。そのためか、富賀寺は文化財が多い寺となっています。

けんぽんちやくしよくさんぜんぶつみょうほうとうぞ  
**絹本着色三千仏名宝塔図**

国の重要文化財で、足利尊氏が寄進したものとされている。三千仏図は、向かって右側の宝光部分に一千の過去仏名が書かれ、中央宝塔部分は一千の現在仏名が書かれている。この宝塔部分はその字配りの疎密で三重の屋根、壇などの形象表現をしている。驚くほどの緻密な計算に裏づけられた完璧な字配りと構成がなければ、これほどの文字絵は描くことができるはずはない。向かって左側の宝光部分は右側の過去仏に対し、一千の未来仏名が書かれている。宝塔の下方に、塔を仰ぎ見る形で菩薩・天部・鬼卒・人物等が円陣を作っている。宝塔の功力に感動した諸形人物の劇的な情景が見事に表現されている。その個々の表現を見ると、鎌倉時代の絵巻物を見るように、それぞれが異なった表情を示し、写実性を基本におきながらある部分では大胆な誇張が見られ、不思議な魅力を漂わせている。

(新城文化財案内より)

この他に富賀寺には、以下のような市指定の文化財があります。

- |     |                                  |
|-----|----------------------------------|
| 古文書 | ① 今川義元証文                         |
|     | ② 今川氏真証文                         |
|     | ③ 朱印状                            |
| 絵画  | 横井金谷 <small>きんこく</small> 「江山雪月図」 |
| 彫刻  | 木造金剛力士像                          |
|     | 木造不動明王立像                         |
| 史跡  | 富賀寺中世墓地(鎌倉時代)                    |
| 名勝  | 富賀寺庭園                            |



国指定重要文化財  
絹本着色三千仏名宝塔図